



1学期、お世話になりました。

令和3年度の1学期が終わりました。今年も昨年同様コロナウィルス感染防止が大きな課題として存在し、学校教育の中でも様々な制約のあった1学期でした。そうした中で以前と同じとはいえないまでも、徐々にwithコロナの新しい生活様式が考え出されたり、いろいろな工夫がなされたりしている今、元に戻ろうとする力＝「レジリエンス」が必要とされているように思います。

新しい生活様式。というのは簡単ですが、「本当にこれでいいのか」「やっていいのか」という言葉は、何か行事を行うたびに、いつも心の中にあります。皆さんも同じ不安をかかえておられるのではないのでしょうか。そうした不安をぬぐいさるために、学校は保護者の皆様とのつながりを更に強固なものにしていく必要があると考えています。今少しずつ感染リスクレベルが下がりつつあります。決して油断することなく感染防止の工夫をしながら新しい小国小学校の在り方をみんなで考え、模索していきたいと思います。保護者の皆様のご意見、そしてご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



いつもどおりの夏休みが戻ってきました

去年は短かった夏休み。今年は例年並みの長さに戻りました。短い夏休みを経験すると「ほんとに夏休みって必要だろうか?」「昨年みたいに短くていいのでは?」という考え方も出てきそうです。コロナ禍の中、これまでは当たり前と考えられてきた価値観が、大きくゆらいでいます。全ての教室に冷房が完備され、快適に授業が受けられる環境があるとなれば夏休みの返上につながるのも至極当然な話です。そもそも、夏休みって本当に必要でしょうか。

私は、夏休みは絶対必要だと考えます。夏休みは、児童が「自律」を学ぶ機会であるということです。これは学校教育の根本にかかわる部分、つまり不易な部分です。学校で子どもたちはチャイムで切り取られた時間の中で生活しています。学習指導要領を土台にした「時間割り」があり、徳・知・体のバランスが重視されなければならないからです。しかし夏休みの時間は区切りがありません。何をするかは子どもたちの自主性次第です。子どもが自分で決めたことを自分で実行する数少ない機会であり、自己決定、自己責任を学ぶ大切な機会と言えます。(でも、勉強しない子どもに勉強させるのはとても難しいですね。ただ、私の親としての経験からすると学習の必要性をどう認識させるかが鍵だと言えそうです。)

コロナ以前は何も考えず前例踏襲していたことが、できなくなってしまいました。しかし、そこで私たちに求められているのは、機械的な対処ではないように考えます。「教育の本質は何なのか。」「これからの社会で小国小学校に求められ、また小国小学校が地域社会に果たすべき役割は何なのか。」これらの問いにしっかり向き合い、変えるべきではない不易な部分と、時代の要求にマッチした流行の部分を見極めていく必要があると思います。子どもたちも含めて、「みんな」で考えていけたらと思います。

